

せとか

出願番号：第10852号

出願年月日：平成10年4月9日

出願者：農林水産省果樹試験場（茨城県つくば市藤本2-1）

育成者：松本亮司 山本雅史 國賀武 吉岡照高 三谷宣仁 奥代直巳 山田彬雄 浅田

謙介 池宮秀和 吉永勝一

内原 茂 生山 巖 村田 広野

来歴：「清見・アンコールNo.2」と「マーコット」の交雑実生
育成地：長崎県南高来郡口之津町（農林水産省果樹試験場）

特性

■栽培特性

樹勢は中～やや弱で、樹姿は中～開張性である。枝梢密度は「清見」、「マーコット」と同様に中程度、枝梢の太さも中程度で、長さは短く、葉が密生する。とげが発生するが、樹勢が落ち着けばオレンジ並に小さく、短くなる。葉は紡錘形で「清見」より小さい。樹体の耐寒性は「清見」よりやや弱く、マーコット並である。

花は単生で「清見」より小さい。子房の形は扁球形。花卉は紡錘形をしており、白色で5枚。花粉は全く形成しない。通常、無核であるが他品種の受粉により種子が入る。露地の集団栽培あるいは施設下で栽培すると種子はほとんど形成されない。「清見」より種子形成力は弱く、種子数は0～5粒程度で少ない。単為結果性は強い。豊産性で連年結果する。

■果実特性

果実は200～280gで大果である。果形は腰高の扁円形で整っている。果皮は橙～濃橙色で薄く、剥皮性は比較的容易で「清見」より剥きやすい。果面は平滑であるが油胞が目立つ。中位のマーコット香類の芳香がある。熟期は2月上旬から2月下旬で、濃厚な食味になる。果汁の糖度は13度程度で高糖度である。酸は適熟期に0.8～1.3%になる。果肉は橙色で、じょうのう膜（袋）は極めて薄く、肉質は柔軟・多汁で、果肉は袋ごと食べられる。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

そうか病の抵抗性はウンシュウミカン以上であり、ウンシュウミカンに準ずる防除で十分といえる。かいよう病の発生程度は無～軽の場所が多く、栽培上問題とならなかった。トリストエザウイルス(CTV)に対しては罹病性であり、ステムピッチングの発生度は高いが、通常の栽培管理では、CTVによる樹勢低下の問題はないようである。

本品種は外観、果実品質ともに良好で、豊産性で樹勢も落ち着き栽培しやすい。しかもこれまでの主要な施設栽培用品種である「アンコール」、「マーコット」より早熟で、ほぼ無核化された改良品種であり、これらに替わる品種として注目されている。しかし、樹勢がやや弱いと、適正着果に留意し、肥培管理を徹底することにより、樹勢の維持・強化を図る必要がある。なお、高接ぎ1～2年は主枝、亜主枝を構築する枝のトゲの除去を徹底する必要がある。また本品種は定植後早期に結実しやすく、樹冠がコンパクトになりやすいため、大苗の育苗をはかり十分な大きな苗を定植すべきと考える。

■地域適応性

中国、四国、九州および沖縄で食味良好な果実が生産されていることから、栽培地帯は西日本が適すると思われる。本品種は広島、愛媛、沖縄において有望と評価され、「清見」が栽培されている地域では露地栽培可能と考えられる。

(松本亮司)